

平成 29 年（2017 年）1 月 16 日

広島市都市計画審議会
立地適正化計画専門部会（第 4 回）
会 議 要 旨

事 務 局

都市整備局都市計画課

広島市都市計画審議会立地適正化計画専門部会（第4回） 会議要旨

1 開催日時

平成29年（2017年）1月16日 午前10時00分

2 開催場所

大手町平和ビル5階大会議室（広島市中区大手町四丁目1番1号）

3 出席委員

渡邊部会長、塚井副部会長、福田委員、渡部委員、茗荷委員

4 傍聴人

一般 5名

報道関係 1社

5 閉会

午前11時50分

1 誘導施設を幅広く設定することについて

(福田委員)

- 広島市の独自性や特徴から、誘導施設を幅広く設定することは大事なことでと思う。しかし、その説明が「都市全体を見据えながら必要な都市機能の全体像を示すことが必要」としか記載されていないため、市民に伝わり難い表現となっていると思う。
- 商業施設は、種類が多様化し複合化が進んでいることから、ターゲットとする施設を明確にする必要がある。

(渡邊部会長)

- 関連計画である「都心活性化プラン」の中で、積極的に都心部へオフィスやホテルを誘致する旨が記載されていないのか。記載されてるのであれば、それを踏まえて、立地適正化計画においても、誘導施設に準ずるものとして記載できるのではないか。

(渡部委員)

- シティホテルの定義を明確にする必要がある。

(茗荷委員)

- MICE関連施設は、会議室、展示施設やホテルなどについても対象になると思われるため、この定義について整理する必要があるのではないか。

(塚井副部会長)

- 高次都市機能を有する施設として設定されている誘導施設は、一時滞在者か来街者向けの施設であり、居住者の利便に供する施設ではないので、そのことが分かるように記載方法を工夫した方が良いのではないか。

2 計画骨子案の全体構成について

(渡邊部会長)

- 居住誘導区域外となる市街化調整区域における居住の考え方についても、計画に示す必要があるのではないか。

(福田委員)

- 今あるモノをどう生かすかが大切であり、空き家や空き地など既存ストックの活用を支援するなどの誘導施策は考えられないか。

(渡部委員) (茗荷委員) (塚井副部会長)

- 基本目標の中でも、「持続可能な都市構造への転換」を最重要目標として掲げていると思うが、抜本的な都市構造の転換を宣言するには文脈が弱く、文章も具体的でないため分かり難いように感じる。

(渡邊部会長)

- 広島市の場合、「中四国地方の発展をリードする」という文言を基本目標に入れることは必要なことだと考えている。来街者を含めた計画を作成するスタンスで進めれば良いと思う。

3 その他

【勧告について】

(渡邊部会長)

- 勧告基準の作成にあたっては、誘導区域外の立地であっても、隣接市町にとって必要な施設であれば勧告の対象にしないなどの配慮も必要ではないか。

【災害リスクについて】

(塚井副部会長)

- 計画の中で危険性のある場所を示すのは当然だが、避難場所等についてもこの計画の中で示すようなことは考えないのか。

(渡邊部会長)

- 地区計画等により防災上の配慮を施した区域については、危険性のある場所の中でも他の区域と区別して表示するなどの工夫があっても良いのではないか。

【誘導施策について】

(福田委員)

- 誘導施設や居住機能を一定の区域に誘導するのであれば、もっと誘導施策を充実させるべきではないか。

【評価・検証について】

(塚井副部会長)

- 評価・検証時に基準として活用できるように、指標を設定する意味合いをきちんと明記すべきではないか。

(渡邊部会長)

- 評価・検証の指標については、基本目標の内容に対応したものを設定するなど分かりやすい指標とした方が良い。